



## 前・浦安市助役の山本さんと、ともに

理事長 西田 良枝

前・浦安市助役の山本尚子さんが、ニューヨークの国連本部勤務から3年ぶりに日本に戻られました。山本さんは、浦安市退任後、厚生労働省に戻り国連日本政府代表部に派遣されていましたが、帰国後の4月からは千葉県健康福祉部の理事として、千葉県行政で手腕を発揮されています。「とも」設立当初から、ずっと応援し続けてくださっている山本さんの千葉県着任は、私たちにとっても心強くうれしい事です。帰国を歓迎して「とも」理事長の西田がインタビューさせていただき、国連のことや今後の抱負を語っていただきました。

(西田) お帰りなさい。早速ですが、国連はどんなところでしたか？

(山本) 国連は、世界の192カ国が加盟して世界の問題を考えています。経済のグローバル化によって、残念ながら先進国においても貧富の差は広がっていますし、途上国においてはますます貧困が激しくなっています。その中で、世界中の人の平和や平等や健康に結びつくようにするために我々はどう取り組んだらいいのかわ、ということをや日々議論しています。先進国や大国でも、途上国や小さな国でも議決権の一票は同じなので、世界の政府が同じ立場で話し合うことができる大切な場だと思います。

ただ、例えば「女性の差別」という言葉を使った時に、英語で言えば同じ言葉なのだけれど、日本の国からみた女性の社会的な問題、地位の問題、男性との格差の問題も差別という言葉を使うし、途上国、例えばアフリカにおいては、女性が財産権や相続権が認められていない、一個の人間として認められていないような状況での女性の差別というのも同じ言葉なんですよね。同じ単語を使うから、ある意味同床異夢。目指す方向は遠いところでは同じなのだけれど、現実の問題はすごく差があって、それを同じ言葉で議論する難しさを感じました。

(西田) 国連の「障害者の権利条約」採択でのエピソードを教えてください。

(山本) 直接担当していなかったのですが、国連の会議の中で初めて、世界中の当事者が議論の最初から参加していました。参加している人々の所属している団体も多様で、障害も様々でした。日本からの当事者の参加も様々な支援を得て実現したのですが、特に途上国からの参加を実現するため、国連の機関も尽力しました。一番印象深いのは、世界の当事者の参加を得て、国連でまとめきったことです。

ただ、その中で日本が議論をリードしたのかというと、それは乏しかったと思います。日本がそういう場に出た時に、国際社会に通用する理念をもっているかどうか。世界で議論されている内容が、国内制度から見て問題はないかをネガティブ・チェックするだけでなく、世界のあるべき姿を提示できるかが問われます。条約の内容が、今の日本に合うと言ってくれば批准するというようなスタンスでは、世界はリードできませんよね。新しい問題を世界と一緒に解決していこうとする姿勢と、世界を説得する理念プラス技術が必要です。

(西田) 千葉県理事としての抱負をお願いします。

(山本) 堂本知事からお話をいただき、大変光栄です。もう一度浦安市や千葉県とも関わられるのでうれしいです。これまで市町村での仕事しかしたことがなく、市にいる時は県を頼りにしないというか、県は邪魔立てしないでくれと思っていました(笑)。でも、今は県の役割というのはあるかなと思っています。

千葉県方式として知事がすすめているタウンミーティングは、県民が行政に頼るのではなく、主体的に地域の問題を見つめ、考え、解決していく基盤整備をしている過程だといえます。県も市町村も私も、動き出した県民、市民のパートナーとして頑張らなくてはと思っています。



## 相談事業 障がい児・者サポートセンターとも事業

「サポとも」は、平成 15 年度から浦安市障害者生活支援事業を受託し、障害種別を分けることなくご相談を受けられました。

昨年度、障害者自立支援法が施行され、これまでの実績のもと 4 月からは「浦安市障がい者総合相談支援事業」として引き続き相談事業の委託を受け、障害者自立支援法に基づく総合相談センターとして、新たなスタートを切りました。

事業内容としては、従来の個別相談支援に加えて、困難な問題を抱えて専門的な支援を必要とする人に対応する「相談支援機能強化事業」、住まいの確保を支援する「居住サポート事業」、知的障害や精神障害のある方のための「成年後見制度利用支援事業」を実施します。また、自立支援法の要といわれる「地域自立支援協議会」の事務局も浦安市障がい福祉課と一緒に担当することになりました。

【白川】

## 一時ケアセンター事業

昨年度から指定管理者として浦安市より委託を受け、24 時間 365 日のケアを提供しています。24 時間ということで、宿泊ももちろん可能なので、介護者の急病などの緊急一時にも対応、又家族のレスパイト、本人の自立にむけての体験などでもご利用いただけます。

建物は施設というイメージではなく、利用される皆様が自宅と変わらない気持ちで過ごして頂けるよう、和室やダイニングキッチンもあり、一般家庭に近い雰囲気になっています。昇降するシンクは、車椅子の方もお料理をしたり、洗い物なども出来るように環境が配慮されています。各障害者手帳所持の方、難病の認定を受けている方であれば、初回面接の後ご利用頂けます。

【竹谷】

## 就労支援事業

### 「浦安市斎場売店」編

平成 17 年 7 月、浦安市斎場売店の運営を開始してから 1 年 9 ヶ月が経過しました。現在は、常勤、非常勤合わせて 6 名により、362 日（完全休業は正月 3 日間）の運営を行っています。業務は、大切な人との最後のお別れの間として、少しでも、斎場を利用する人の身になって・・・と考え、提供できるサービスをいろいろ考えています。

18 年度予算も何とかクリアし、ホッとしています。

19 年度もまた、コツコツ、1 日 1 日を大切に、頑張ります。

### 「今川就労支援センター」編

昨年 9 月にオープンした通称“今川センター”も 7 ヶ月が経過いたしました。浦安市の就労支援センター構想は遅々として進みませんが、今川センターでは、5 名の方を一般就労につなげ、特別支援学校の職場実習の受け入れや、地方の方の職場見学の受け入れ、地域の小学生の社会見学、職業体験の受け入れなど、少しずつ目的としている業務を進めています。

皆さんもお時間をつくって是非今川センターへお越しください。

【西田（俊）】

## 療育事業

“とも”の長い歴史の中で生まれた療育事業。障害があってもたくさんの経験をする場が必要、そしてその中から好きなことも見つけて欲しいという願いは変わっていません。現在、8 つの療育事業（イルカスイミング、療育・手づくりパン教室、クレヨン教室、生活塾、造形教室、ムーブメント療育、卓球教室、音楽療法）を行っています。

専門性の高い療育、楽しみながら余暇にもつなげていける療育など目的も様々。見学や体験も受け付けています。浦安市から週に 1 回、1000 円の療育参加費助成制度があります。

【竹谷】

〈編集後記〉「新とも通信」は美しく！カラー印刷を提案したものの、限られた印刷費でどうやって？悩んだ末にネットで検索たら、なんと、白黒コピーよりも安い印刷屋を発見！紙面デザインは専門家のボランティア。感謝。（S）